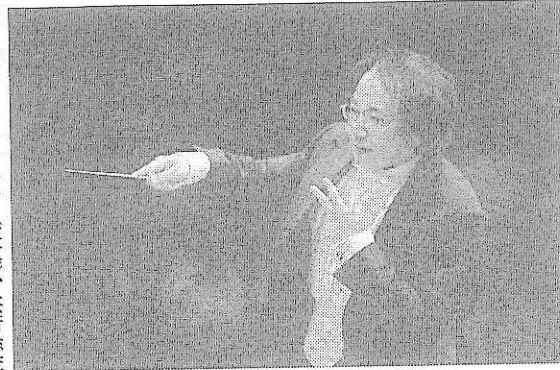


## “国家を代表する楽団”

フィルハーモニア台湾 指揮者ら会見



一九八六年に創設されたフィルハーモニア台湾が東北亜巡演の途次来日、十一月九日(金)東京オペラシティコンサートホールで演奏(既報)。これに先立って都内のホテルで記者会見した。出席したのは音楽監督・指揮者リュウ・シ

ヤオチャ(写真)、芸術総監督ホアン・ビードゥアン、事務局長ジョイス・チュウ(両人とも女性)。「東京と台湾は深い関係だがオーケストラはまだ知られていない。音楽は社会の縮図であり、若くはエネルギーにみちている。とくに

フィルハーモニアは国立中心文化(センター)を代表する楽団です」リュウ氏は二十年前初めて来日した時東京はクリスマス時期で皆が歓喜の歌(ベートーヴェン第九)を合唱していて音楽の主都として世界的にも有名な都市だと思っただ(ホアン女史)。フィルハーモニアはリュウ氏が二年前欧米での活動から帰国して音楽監督に就任後すばらしい成長を遂げた。〇五年以前は国家が主宰し予算も七〇、八〇%助成を受けたが今は六〇%、来年はもっと減少するかも知、ところが日本の実情からみれば六〇%の国家助成は貴重だ。東京公演での曲目はチャイコフスキー、グリーグ、ドヴォルザーク作品。「すべて大きなドラマを有し誰もが知る名曲であり、そこから我々のメッセージを受けとってほしい」とリュウ氏は語った。